

2012年3月27日

一般社団法人

キャッシュ・フォー・ワーク・ジャパン

雇用による被災地復興を支援する
キャッシュ・フォー・ワーク・ジャパンが
福島県各地の“しごとづくり活動”を発掘&記録する
「おしごと中、失礼します！プロジェクト」を開始。

一般社団法人キャッシュ・フォー・ワーク・ジャパン（以下 CFW-Japan／代表 永松伸吾）では、福島県内の雇用を通じた復興活動をレポートする「おしごと中、失礼します！プロジェクト」を開始いたしました。専属ライターを現地で雇用し、県北・県南・会津若松・いわきの各エリアで実施されている「復興に向けたしごとづくり」と「そこで働く人々」を取材。CFW-Japan のWEBサイトにて随時公開していきます。

おしごと中、失礼します！プロジェクト 

<プロジェクトのポイント>

1. メディアには取り上げられにくい、小さな活動をすくいあげます。
2. 働くことで生まれる「やりがい」「希望」を見つめます。
3. 現地で専属ライターを採用。このプロジェクト自体が、CFWの一環です。

1. メディアには取り上げられにくい、小さな活動をすくいあげます。

被災者を復興事業に雇用して、生活再建を支援する「キャッシュ・フォー・ワーク (CFW)」。日本での CFW 第一人者である永松伸吾（関西大学社会安全学部准教授）によって設立された CFW-Japan では、東日本大震災直後より各被災地でその必要性を説き、被災者雇用の実現に貢献してきました。国や自治体が主導となっていく事業から、暮らしのニーズの中から自然に生まれた小さな活動まで、CFW の種類はさまざまです。

当プロジェクトでは、目立たなくとも重要な、隠れた CFW 事例を可能な限り発掘して取材。他の被災地や将来の災害時の貴重な参考事例として、WEB上にアーカイブしていきます。

2. 働くことで生まれる「やりがい」「希望」を見つめます。

しごとは、単にお金を得るためだけのものではありません。それは時に生きがいそのものであり、社会との重要な接点でもあります。ましてや、傷ついたふるさとを蘇らせ、復興させたいという思いは、多くの被災者に共通した感情です。今回のプロジェクトでは、取材対象を復旧・復興のための様々な事業にかかわる“被災者自身”に限定。一人一人の想いを取材することで、しごとが人に与える希望の在り方を考えていきます。

3. 現地で専属ライターを雇用。このプロジェクト自体が、CFWの一環です。

このプロジェクトに当たり、CFW-Japan では福島出身・在住の専属ライターを1名採用しました。肉体労働が中心になりがちな被災地での「しごとづくり」ですが、ニーズを掘り起こせばもっとたくさんの種類のしごとが生まれます。今回の取材プロジェクトも、そのような多様なしごとづくりの一つのアイデア。また、現地の「内から」取材・発信することで、一般のメディア報道とは一味違う視点でのレポートを目指します。

<WEBサイトURL>

<http://www.cfwjapan.com/worktime/>

CFW-Japan のホームページ内に、プロジェクト特設ページをオープン。これまで代表永松と有志により進められてきた他地域のCFW事例レポートとともに、プロジェクトの取材レポートをアップします。(週2回更新予定)

*本事業は、福島県「がんばろう福島！」絆づくり応援事業」の一部として実施されています。

▼CFW-Japan サイト内のプロジェクトページ。



▼事例紹介ページ。



<組織概要>

一般社団法人キャッシュ・フォー・ワーク・ジャパン

●事務局所在地： 大阪府高槻市白梅町7-1 関西大学社会安全学部 永松研究室気付

●代表者： 永松伸吾（代表理事）

<本件へのお問い合わせ>

CFW-Japan 事務局

●Email: office@cfwjapan.com ●Tel: 070-5668-6370